

古城

瓜生田山桜

颯颯たる松風古城を吹く
往事を追懐すれば
孰か情に堪えんや

銀鞍白馬武人の夢
天守閣は荒れて
過雁鳴く

【作者】瓜生田山桜（一九〇三〜一九七七年）（明治三十六年〜昭和五十二年）・名は君子。大正七年鶴田旭窓師の門に入り、琵琶

を学ぶ。昭和元年二十三才、吟詠道場を創設し、山桜吟社と称す。宮井旭山桜という琵琶の称号から山桜と名乗る。

二十五才、瓜生田健次氏と結婚、瓜生田山桜となる。昭和二十五日本吟詠総連盟の初代常任理事に就任。昭和三十八年

日本吟詠総連盟顧問に就任。昭和四十三年日本吟詠詩舞振興会の評議委員に委嘱される。

昭和五十二年五月逝去。七十四歳

【通釈】颯々とした音をたてて松風が古城を吹く。往時を懐すると誰が胸迫る思いに堪えられようか。

銀の鞍を置いた白馬に乗る武人の夢よ。天守閣はあれて上空を通り過ぎる雁が鳴く。